

学校評価計画

令和5年度 学校自己評価シート

福生市立福生第五小学校 校長 泉田 巧人 印

学校教育目標 ○よく考え学習する子(問題解決力) ○優しく思いやりのある子(人間関係形成力) ○健康でねばり強い子(実践力)

目指す学校像(ビジョン・ミッション)

見守る 応える = 「生きる力」「他者との関わり合いを大切にできる心」を育て、地域・保護者との協働により、課題の解決を進める学校

【目指す学校像】	【目指す教師像】	【目指す児童・生徒像】	【その他 特記事項】
①『確かな学力、豊かな心、健やかな体』の調和のとれた教育活動を推進する学校 ②「人間性豊かで、他者との関わり合いを大切にできる子供の育成」をめざす学校 ③コミュニティ・スクールとして地域・保護者との協働を生かす学校	①公務員としての自覚と責任を果たす教師 ②児童理解を深め、保護者の願いを汲みつつ適切な指導ができる教師 ③児童に「分かる・できる」を実感させる授業を常に追求する教師	①よく考え学習する子 ②優しく思いやりのある子 ③健康でねばり強い子	・人権教育の理解と道徳教育の充実による、安心・安全を土台とした学校経営を進める。 ・特別支援教育やユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりを進める。

領域	三カ年経営目標	本年度経営目標	目標達成のための方策	取組指標(教職員の取組)	取組自己評価				成果指標(児童・生徒等の実態・成果)	成果自己評価				分析・改善策			
					当初	中期	年間	評価		当初	中期	年間	評価				
組織的・効率的な学校運営の実現	①コミュニティ・スクールを生かした取組みを進める。 ②分掌組織のPDCAサイクルをより確実に機能させる。 ③校内研修・OJTの充実を図る。	・地域・保護者との協働により学校課題の解決を進める。 ・企画会議を計画的に行い、各分掌の取組の改善に生かす。 ・幼保小中連携及び一人一台タブレット型パソコンの活用を生かした校内研修を進める。	・GCS委員、地域人材による授業への参画 ・教室安全見守りへの協力 ・月1回の経営会議及び主任会議により課題解決を進め見直しをもった運営 ・校内研修を柱に、個別支援・指導と評価・ICT活用に着目して、主体的に学ぶ態度の育成を図る。	・GCS委員と各学年における授業等との積極的な連携 ・各月、及び課題解決のための経営会議開催とともにリーダーによる提案及び主任を中心とした全教員の共通理解	目標	60	70	80	A	・地域人材を活用した授業のまとめに児童の充実感が示されたか。	目標	60	70	80	B	・児童の学校評価で、外部人材の活用した項目において、一番高い項目では肯定的な意見が93%となった。 ・外部人材を活用することで、児童の安全に対する知識や意欲の向上が図られた。 ・各分掌リーダーが推進することにより、学習や行事が円滑に行われ児童の学習に対する意欲や姿勢が向上した。	
					達成		80	90			達成		70	80			
					目標	70	80	90	A	・円滑な教育計画の進行により、学習・生活の両面において混乱なく活動ができたか。	目標	70	80	90	A	・ユニバーサルデザインの視点を生かした授業を実施し、主体的に学ぶ態度の高まりが変容として捉えられたか。	目標
達成		80	90	達成		70	90	達成				80	90				
学力の定着と向上	5・6年生児童の学力を都の水準程度まで向上	①一人一台タブレット型パソコンを活用した演習問題に取り組みせ、基礎・基本の定着に生かす。 ②東京ベシクドリル診断シートの結果を生かし、基礎的・基本的知識等の定着を図る。 ③外部人材の効果的な活用を図り児童の学習効果を高める。	・タブレット型パソコンの活用場面を週の指導計画に位置付け、計画的に活用できるように意識化する。 ・東京ベシクドリル診断の分析を行い指導する。 ・発達段階に応じた量・質の宿題及び家庭学習に取組ませる。 ・必要な学級、教科に授業に授業指導補助員を配置し、個別支援の充実を図る。	・週ごとの指導計画におけるタブレット型パソコンの活用の位置付けが確実な活用 ・東京ベシクドリルを活用し、児童の学習の弱い点に重点を置き指導し、達成感による自己肯定感の向上 ・SSSと担任の連携を図り、特別な支援が必要な児童への効果的な指導・支援方法の工夫	目標	70	80	90	A	・「わかる」という実感が持てるようになったか。	目標	70	80	90	B	・保護者の学校評価から「分かる」への肯定的な意見が85%であった。 ・児童アンケート結果から「分かる」への肯定的な意見が85%であった。	
					達成		90	90			達成		70	85			
					目標	70	80	90	A	・東京ベシクドリル診断において、正答が40点未満の児童が10%以下であったか。	目標	70	80	90	B	・東京ベシクドリル診断シートの算数第3回目の結果、40点未満の児童が13.8%であった。 ・「ふっさ五スタンダード」を活用し児童理解と特別支援教育の視点を生かすことで、落ち着いた学習に取り組めるようになった。	目標
達成		80	90	達成		80	80	達成				70	80	90			
研修・人材育成	①教育管理職候補者及び主幹教諭・主任教諭候補者を育成する。 ②OJTの機能を高め、若手教員の人材育成を図る。 ③特別支援教育の研修等を通して、児童理解や教員の知識の習得の機会を充実させる。	①経営会議の内容の充実を図り、主幹層の経営参加意識をたかめる。 ②OJTにおける講師を担い、専門性を高める。 ③特別支援教育の研修等を通して、児童理解や教員の知識の習得の機会を充実させる。	・主任会実施により、学校経営の参画意識を向上させる。 ・マネジメント研修への参加の促進及び主任教諭選考有資格者への講話を実施する。 ・年間21回のOJTにより、講師自身の学びと若手育成の場とする。 ・児童理解や対応の知識・技能を習得するための短時間の研修等を実施する。	・学校の職務に見直しをもった提案及び経営層の学校経営参画意識 ・各回のOJT講師が専門性を生かした研修の実施 ・職員会議や夕会などの活用による短時間の研修の実施	目標	70	80	90	A	・教育計画の実施に伴い、児童の充実感が得られたか。	目標	60	80	90	A	・様々な変更や微調整が円滑に行うことができた。 ・経営会議により課題把握が確実に図られ、確実に課題解決ができた。	
					達成		80	90			達成		70	90			
					目標	70	80	90	A	・学校としての足並みのそろった対応により、児童が安全で安心した生活できたか。	目標	70	80	90	A	・学年内の学習の質や行事への取り組みの質が整い、児童が安心して学校生活を送ることができたか。	目標
達成		80	90	達成		80	90	達成				70	80				
特色ある学校づくり	①学校公開の充実と活用を進める。 ②愛鳥活動を中心に据え、生活・総合・各教科等とも関連させて、児童の豊かな学びを展開する。 ③不登校児童の防止に努めるとともに不登校児童には適切な対応支援を行う。	①授業公開や行事の積極的に公開する。 ②五小ESDカレンダーを活用し、「愛鳥校」としての学びを充実させる。 ③関係諸機関との密接な連携のもと具体的な対応を行う。	・行事や授業公開を実施し、児童の成長を保護者が見取れるようにする。 ・生活科・総合的な学習の時間を柱とし、人材活用を進めながら、地域や環境に関する学びを進める。 ・家庭・地域・各機関等と連携し、いじめの早期発見・解決を図る。	・授業や行事の積極的な公開 ・地域人材の積極的な活用による実感ある学びの推進 ・校内支援委員会の充実及び人材資源の効果的な活用	目標	70	80	90	A	・児童が自分らしさを発揮していきいきと参加することができたか。	目標	70	80	90	A	・学校公開を昨年度より保護者参観を充実させることができ、保護者の学校評価の「学校公開」の項目で肯定的な意見が99%であった。 ・安全教育と各教科等をカリキュラム・マネジメントで関連付け授業を行った。 ・愛鳥活動・環境学習等を計画通りに実施できた。 ・安全教育推進校や道徳科、総合的な学習の時間等の授業に外部の人材を講師として招聘し、授業を行った。 ・不登校対応を粘り強く行った。 ・学級活動で学級会やレクリエーション等の活動を充実し、児童のコミュニケーションの力を身に付けさせている。	
					達成		80	90			達成		70	90			
					目標	70	80	90	A	・地域人材を活用した学びの場面で楽しい、分かる等の実感が児童にあったか。	目標	70	80	80	A	・支援を必要とする児童の相談から具体的な対応や指導について専門的なアドバイスを得て、児童が学級を居心地良く感じられるようになったか。	目標
達成		80	90	達成		90	90	達成				60	80				

前年度の学校評価をいかにして、4月時点でビジョン・ミッション、各目指す像、各目標、方策、指標を設定する。提出時期に応じて、その時点での達成度を%で自己評価欄に記入する。自己評価の評語は最終段階で、目標の5割未満はC、8割未満はB、10割未満はA、目標超えはOの標語を記入する。

領域例：学力向上策、生活・進路指導策、人材育成策、研究研修策、学校運営策、特色ある学校づくり策等